



戦の本来の姿などを分かりやすく説明する日和佐さん

知ればじわじわ見えてくる—— 山城の価値と面白さを感じる講演会

郷土への愛着を深める「ふるさと学のススめ」（全3回）の初回講座が2月12日、小田自治センターで開かれました。県文化財保護課主幹の日和佐^{のぶまさ}さんが「山城を知ろう」と題して登壇。桶狭間や関ヶ原の戦いなどを例に当時の合戦の規模や戦い方を紹介しながら、山城の役割や構造を解説しました。満席になるほどの人気ぶりで、参加者は町内に残る山城の価値や面白さに理解を深めていました。



完成を喜ぶ南山自治会長の田中年男^{としお}さん（左）と源田さん

後世に残したい地域の歴史と暮らし 地域愛の結晶『我がふるさと南山』が完成

南山地区の歴史などをまとめた冊子『我がふるさと南山』が、このほど完成しました。製作は自治会役員などで組織する編集委員。約2年かけて調査・編集しました。高齢者5人から聞き取りした方言のコーナーは特に好評だそうです。編集委員代表の源田^{ゆきお}幸生さん＝源台組＝は「多くの人の協力で完成した。南山をより深く知ることが、郷土愛を育むことにつながれば」と思いを語りました。



「空想で世界を彩りたい」と語る田丸さん

30年以上愛される人気ラジオ番組 「ラジオ深夜便」に内子町が登場

NHKラジオ番組の公開収録「ラジオ深夜便のつどい」が2月11日、内子座で開かれました。松山市出身のショートショート作家・田丸^{まさとも}雅智さんの講演があった他、番組担当の桜井洋子さんと山本哲也さんが内子町を歩いた印象などを楽し気に語りました。終始、和やかな雰囲気包まれて収録された「ラジオ深夜便」は、3月23日午後11時5分からラジオ第1・国際放送で放送される予定です。



タイムカプセル（手前）から出てきた思い出の品々を囲む

14年前のタイムカプセルからあふれだす 色あせない思い出と変わらない笑顔——

平成21年に閉園した御祓幼稚園の最後の園児と、当時の御祓小学校の在校生などが2月19日、同小学校跡に集まり、閉園記念に埋めたタイムカプセルを掘り出しました。参加者は14年前の写真や手紙などを手に、CDに記録されたスライドショーを観賞。懐かしさに浸りました。元職員の宮岡^{たかこ}貴子さんは「思い出の品々だけでなく、みんなの成長した姿を見られてよかった」と感慨深げでした。

小さな天才たちがピカソを超える？ 感性と想像力を刺激する「天才画廊」

園児の絵画に大人が解説を加える「天才画廊」（五十崎企画委員会主催）が1月26日から、五十崎自治センターで開催されています。展示されているのは五十崎こども園の園児たちの作品111点。「愛の行方」「神々の憂鬱」などのタイトルが付けられています。同会長の稲月^{みづたか}道隆さんは「子どもたちの絵は自由で天才的。皆さんも自分なりの解釈をして楽しんでみて」と呼びかけました。



観覧者も参加できる。あなたの解説が展示されるかも

泣き虫鬼、おこりんぼ鬼、好き嫌い鬼—— 豆をまいて自分の中にある鬼をやっつけろ

節分の2月3日、五城保育園（渡邊^{あき}亜紀園長）でも園児たちが豆まきを楽しみました。ホールで節分の話聞いた後、各部屋に戻ると赤鬼と青鬼が登場。園児たちは突然の出来事に泣きながら逃げてしまいましたが、最後は「おにはそとー」と豆をまき、心の中に潜む「鬼」も一緒に退治しました。渡邊園長は「鬼をやっつけて、元気にすくすく育つ1年になれば」と園児たちの成長を願いました。



新聞紙を丸めた「豆」を鬼に投げつける園児たち

大久保地区を見守り続ける大わらじ 疫病退散を祈願して今年も「鬼の金剛」

地域の無病息災を願う「鬼の金剛^{こんこう}」が2月6日、大瀬・大久保地区の薬師堂で行われました。同地区では毎年、旧暦の1月16日に住民が集まって念仏を唱え、作った大わらじなどを地域の入口につり下げます。子どもの頃から見てきたという宮本^{まさあき}昌明さん（87）＝大久保＝は「大男が履き古したような迫力のあるわらじができた。地区の伝統行事をこれからも続けたい」と話しました。



慣れた手つきで大わらじを編み上げる

大人も子どもも、冬こそ走って健康に 小田川の堤防を駆けるジョギング大会

「第42回いかざきジョギング大会」（五十崎自治センター主催）が2月12日に開かれました。幼稚園児から大人まで50人が参加。1往復1.9^キのコースを親子で並んで走ったり、友だちとタイムを競ったりしながら駆け抜けました。ソフトボールチームで参加した山田^{しやんた}駿太さん（天神小6年）は「初めて2往復したので、しんどかった。中学生になっても挑戦したい」と笑顔で汗を拭きました。



大人も子ども一緒になってジョギングスタート